

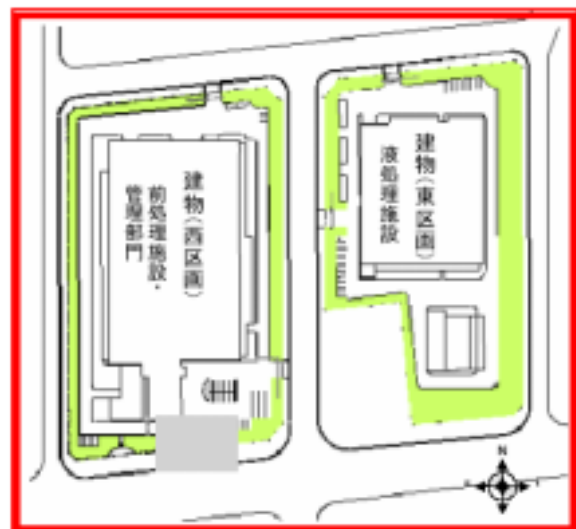
日本環境安全事業(株)大阪事業の処理施設の概要

1 事業の概要

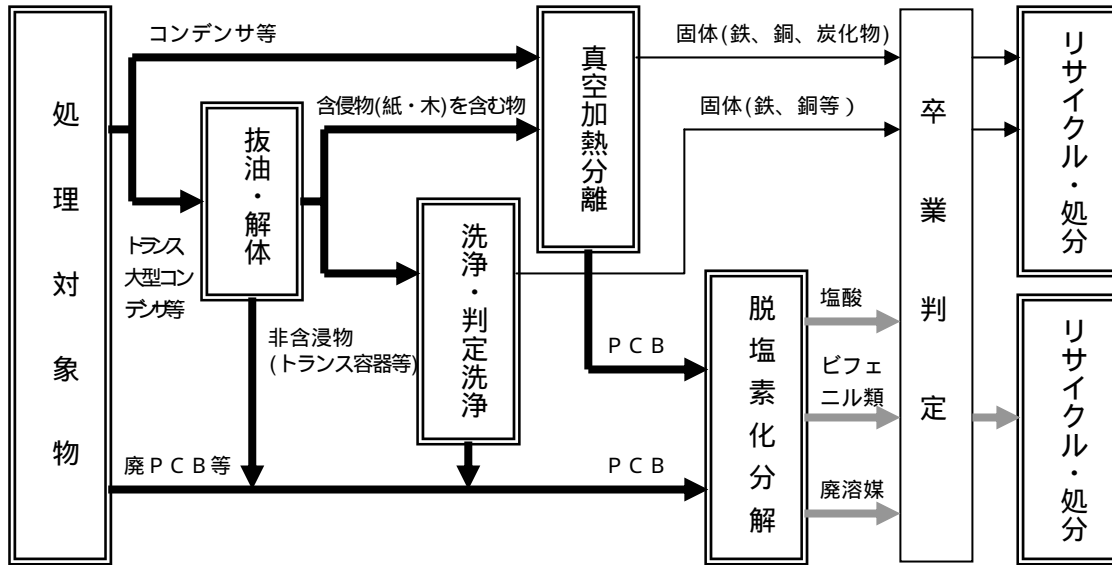
項目		内容
設置場所		大阪市此花区北港白津2丁目1-20・21
面積		約28,550㎡
処理対象物		滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県にある次のPCB廃棄物 ・高圧トランス、高圧コンデンサ、廃PCB、PCBを含む廃油
処理方式	PCB分解	脱塩素化分解法 (Pd/C触媒水素化脱塩素化分解法)
	洗浄・分離	予備洗浄・洗浄：溶剤洗浄法 分離：真空加熱分離法
処理能力	PCB分解	2.0トン/日(PCB分解量)
	洗浄・分離	予備洗浄：16.0トン/日 洗浄：1.5トン/日 分離：5.6トン/日
工事着工		平成17年1月
処理開始		平成18年8月(予定)
処理完了		平成27年3月(予定)

2 施設の位置

施設の配置図

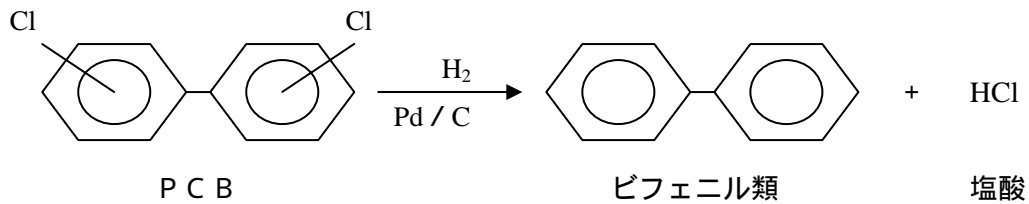


3 処理フロー（概要）



4 脱塩素化分解（PCB分解）の概要

PCBをパラフィン系溶媒で希釈し、Pd/C触媒（活性炭の表面にパラジウムという金属を付着させたもの）の存在下にて、260℃、常圧でPCBの塩素を水素と化合させて取り除き、PCBを分解。



PCBを分解した後、蒸留によりビフェニル類と溶媒とPd/C触媒とを分離して回収し、溶媒と触媒は再利用。

ビフェニル類は、卒業判定基準値¹（PCB濃度0.5mg/l）以下であることを確認後、リサイクル。

塩化水素は、水に吸収させ、塩酸として回収。

5 溶剤洗浄の概要

PCBを抜油した後の容器及び内部金属部材に付着したPCBを除去するため、容器及び内部金属部材を溶剤で洗浄。

洗浄対象物の洗浄実施後、無害化されたことを確認し、リサイクル又は処分。

6 真空加熱分離の概要

コンデンサやPCBが浸み込んだ紙・木及びこれらを含んだ部材などを真空に近い減圧状態（約6kPa）で加熱（約400℃）することにより、PCBを分離し、オイルスクラパー²等で回収。回収したPCBは脱塩素化分解される。

1 卒業判定基準：PCBの処理が完了し、PCB廃棄物でなくなっていることを判定するための廃棄物処理法に基づく基準。対象物に応じて定められた試験方法によりPCBの分析を行い、所定の基準以下であることを確認する。

2 オイルスクラパー：PCBが油に溶け易い性質を利用し、PCBを含んだ排気から油のシャワーでPCBを捕捉回収する装置。